

予算議会
について

音別町の地デジ放送と 阿寒町のTVhの難視聴解消へ

大誤算、アイヌシアターの入場者数

予定を1万5千人も下回る

アイヌシアターの初年度の収支見通しが発表されて、委員会は「大もめ」。議会から「見通しが甘い」と叱責され、何度も収支計画を練り直し、「火山の噴火でもない限り大丈夫」と太鼓判を押したはずの予定入場者数7万2千人に対し、実際は5万6千8百人にとどまる見通しが示されたからです。チケットの収入単価も目論見が外れ、収入が大きく落ち込んだのです。出演者の人件費を削減して、赤字にはしましたが大問題です。

収支計画と実際の収支が大きく乖離していることについて質問が集中し、市は赤字にならなかつたからよかった、当初の出演者より少ない人数で演目を演じられたから人件費は下がったと苦しい答弁。今後の収支計画の見直しが避けられない事態となりました。



市議団だより

村上かずしげ 2013年 4月 29日 通信

日本共産党釧路市議団 23-5212
このチラシは政務調査費で作成しました。



釧路町にある水面貯木場を釧路市が突然利用中止にすると言って、大きな問題になっています。

水面貯木場に保管している南洋材は、伐採の規制も厳しくなるなど、この先の事業の見通しがたたなくなってきたこと、また貯木場が老朽化し、護岸や物揚場を改修するとなると10億円を大きく超える経費が必要となることから、今後の事業の在り方を抜本的に再検討すべき時期に来ているのは、市が言っているとおりです。

しかし、すでに市は貯木場の長期存続を前提に、数年前から埋め立てを進めていくのも、また事実です。利用者との間の話し合いがまとまる見通しもないまま、埋め立てを進めてきたのはなぜでしょうか。

利用者側が市の催促があっても十分な事業見通しを示さなかつたことは問題ですが、そそうした情報を一切知らされなかつた関係者にとっては、寝耳に水の話です。

しかも、道が仲介に乗り出すと、先がまたまた、見えな



水面貯木場の廃止問題について

アナログ放送が停止になり、地デジ放送だけとなって、テレビを買い替えたお宅も多かったと思いますが・・・実は音別地域では地デジ放送の画面が途切れる障害が相次いで起きていました。フェーリング現象と呼ばれる電波の乱反射が原因でした。

村上議員は、地域の懇談会でこの話を聞いて以来、たびたびその改善を求めて議会で質問してきました。こうした質問も力になって、パシクル地区に受電施設と、市街地に4基のアンテナを設置、農村部には光ケーブルを敷設して、難視聴が今年解決されることになりました。

あわせて、阿寒地域のTVhの難視聴解消も、昨年度から改修工事が始まり、今年度は中央、新町、北町、北新町一帯の難視聴が解決することになりました。今年度には解決が図られる世帯は音別で765世帯、阿寒では、1300世帯になります。

